

# フェミニスト神学

## フェミニスト神学の歴史

- 前史：エリザベス・スタントン『女性の聖書』（1898年）
  - 「これは神の言葉を聞き間違えた男たちの言葉である」
- 1960年代後半にアメリカを中心に広まった女性解放運動の一部として、フェミニスト神学は始まった。
- メアリー・デイリー『父なる神を越えて』（1973年）
  - 「神が男性であるなら、男性が神である」
- 今日、非常に多様化している。

2

## フェミニスト神学の目的

- キリスト教における男性中心主義に対する批判とその克服。
- フェミニスト神学は、単に「女性的」テーマを考察するのではなく、神学のあり方を根本的に問い直す。

3

## フェミニスト神学の位置づけ

- 現代世界においては多様な女性理解が存在している。



4

## 女性理解とパターナリズム

- それぞれの宗教で、固有の女性理解が主張され、受容されるのは「信教の自由」「思想・信条の自由」に属する事柄であると言える。
- しかし、多様な女性理解があることが提示されずに、ある特定の女性理解（性別役割分業）だけが独占的に主張されるのは一種の「**パターナリズム**」と言える。
  - パターナリズム：父親的温情主義

5

## フェミニスト神学の特徴

- 実体より関係を
  - Relation over substance
- 不変より変化を
  - Change over immutability
- 救済より解放を
  - Liberation over salvation
- 終末論より生態論を
  - Ecology over eschatology

6

## フェミニスト神学の成果と展望

1. キリスト教の歴史的起源の再解釈
2. 女性の視点による聖書解釈の見直し
3. 「包含的言語」による聖書翻訳
4. 新しい神理解の形成
5. 異文化に生きる女性同士の連帯
6. セクシュアル・マイノリティとの方法論的連帯
7. エコロジー問題への新しい視座の提供

7

## 1. キリスト教の歴史的起源の再解釈

- 最初期、イエスによって促された伝統的価値観からの自由は、特に終末待望に裏付けられた宣教的情熱と結びついて存続した。そこでは男女が平等に参与する共同体が存在していた。
- 後に、ヘレニズム・ローマ社会の家父長制や**性的二元論**に順応するようになっていく。

8

## 2. 女性の視点による聖書解釈の見直し

- 男性の解釈者によって、しばしば無視されてきた、女性をめぐる言説・物語を再発見する。
- 性差別表現を含め、聖書中に性・性役割に関して内容的にはっきりと矛盾する箇所があることを認識することによって、ある特定の箇所が排他的に用いられることの無意味性と危険性を喚起する。
  - コロ3:18（男女の支配・服従の関係を強化）とガラ3:28（それを否定）
  - 一テモ2:15（性と生殖とが一致した家父長制社会を代弁）とルカ11:27-28（それを破棄）

9

## 3. 包含的言語 (INCLUSIVE LANGUAGE) による聖書翻訳

- 両性に対し平等であるよう、聖書翻訳や礼典の表現が見直されている。
- 例：「主の祈り」における神への呼びかけ
  - Our **Father** in heaven
  - ↓
  - 1) Our heavenly **Parent**
  - 2) Our **Father-Mother** in heaven
  - 3) **Abba** God in heaven

10

## 4. 新しい神理解の形成

- 神の女性性を表す伝承に注目する。
- たとえば、知恵文学における「知恵」(ソフィア)の働きや、**ガイア**としての神など、従来の神理解には見られなかった側面を際だたせている。

11

## 5. 異文化に生きる女性同士の連帯

- 「女性」という言葉によって、もっぱら**白人女性**を意味していた、という初期フェミニズムへの反省を継承しながら、欧米以外の女性の声に積極的に耳を傾けようとする。
- しかし、「女性」の視点の**多様性**と**普遍性**をどのように理解するかについては、今も議論が続いている。

12

## 6. セクシュアル・マイノリティ との方法論的連帯

- 同性愛者は伝統的に性差別の対象とされることが多かったが、フェミニスト神学が獲得してきた聖書解釈や神学上の方法論は、セクシュアル・マイノリティのアイデンティティ獲得のためにも有益である。

13

## 7. エコロジー問題への新しい視座 の提供

- 代表的なフェミニスト神学者たちの多くは、エコロジーの問題をフェミニスト神学の重要な課題と考えている。
- 男性によって抑圧されてきた女性と、人間（男性）によって抑圧されてきた自然の間に相関関係を見ている。

14

## 参考文献

- R=R・リューサー『性差別と神の語りかけ——フェミニスト神学の試み』新教出版社、1996年。
  - フェミニスト神学への体系的入門書。
- エリザベス・シュスラー・フィオレンツァ『彼女を記念して——フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築』日本基督教団出版局、1990年。
- E・モルトマン＝ヴェンデル、J・モルトマン『女の語る神・男の語る神』新教出版社、1994。
  - フェミニスト神学に関する諸テーマを含んだ講演録・論文。
- 大越愛子『女性と宗教』岩波書店、1997。
  - 諸宗教における女性差別の問題を考察している。
- 宮谷宣史編『性の意味——キリスト教の視点から』新教出版社、1999年。

15